

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1090200096		
法人名	有限会社 アズ		
事業所名	グループホーム あんず		
所在地	高崎市新町3148番地		
自己評価作成日	平成21年12月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成22年12月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホームは、文化ホール、幼稚園、市役所、支所、保健センター、消防署等が立ち並び市街地に立地している。木造平屋造りのホームは、玄関ポーチに季節の花が植えられたプランターが置かれ、ホールには季節の鉢が飾られている。入居者の八割は地域の方であり、家族の訪問も多く、近隣を散歩して地域の方と挨拶を交わしている。職員は入居者と一緒に食材を購入し、旬の野菜を使い、味、色彩、カロリー等を考えた食事を提供している。また、バイタルサインのチェック、食事の摂取状態、排泄等の心身の健康状態の管理をして、変化に対応している。入居者は、テレビ観賞や歌の好きな方は歌ったり、会話を楽しんだり、月一回の夕食や季節の花見を楽しみ、表情豊かである。職員は、入居者の一人ひとりの思いを大切にケアに配慮し、熱意を持って理念の実践に取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「その人らしさを大切に、地域に根付いた家庭的な生活・安心な場所を提供し、一人ひとりの可能性を見出し、質の高いケアを心掛ける」ことを理念とし、入居者が馴染みの環境のもとに日々の生活が送れるよう「今を大切に」した理念の実践に取り組んでいる。また、事業所は新町の中心街にあり、道を隔て新町文化ホールと幼稚園、周囲には高崎市役所支所や図書館、保健センターや長寿センター、小・中学校や消防署などの公共施設に囲まれており、入居者は、文化ホールでの観劇や図書館の歌集やCDの貸し出し、散歩の途中での長寿センターの利用者とのお喋り、弁当を持参した幼稚園の運動会の見物など、公共施設を活用した地域との交流促進に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、新人職員に、理念、考え方、を説明し職員は会議等の折りに理念について話し合っている。今を生きるを大切に考え馴染める環境作りに取り組んでいる。	「その人らしさを大切に、地域に根付いた家庭的な生活・安心な場所を提供し、一人ひとりの可能性を見出し、質の高いケアを心掛ける」ことを理念としており、「その人らしさとはどういうことか」等を職員会議で話し合い、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の情報は広報と区長にり得ている、入居者は、散歩、買い物などに出掛け、近隣の方と挨拶を交わしたり、近隣の特別養護老人ホームの納涼祭や、花火大会に参加し、町のボランティア団体の協力により、ホーム前の文化ホールでの音楽会や日本舞踊等に招待され出席している。	自治会に加入し、入居者は地区の納涼祭や祭りを見物したり、散歩時に挨拶を交わしたり、近くの商店で買い物をしたりしている。また、事業所は新町の中心街にあり、入居者は文化ホールでの観劇、図書館の歌集やCDの貸し出し、長寿センターでの利用者とのお喋り、弁当持参での幼稚園の運動会の見物など、公共施設等を活用した地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症の人の理解や、支援をして頂けるように、三月にオレンジリング(認知症サポーター)を新町支所に協力して頂き、等ホーム主催にて行ったり、運営推進会議の中にて、認知症の方のワンポイントアドバイスをやっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二ヶ月に一回開催し、利用状況、運営や行事報告、入居者の問題等の話し合い、また、ホーム内の行事の参加等をお願いしている。行事は、出席されない方の為、あんず便りを、各家族に発行している。運営推進会議では、家族の意見や希望も出され、運営に生かしている。	運営推進会議は、区長・消防団長・近隣住民や全家族等を構成員として奇数月に開催し、行事予定や行事報告等を行っている。会議では家族も参加する「あんず祭」や「日帰り温泉旅行」等について意見交換し、「利用料金の集金日」や「光熱水費の負担方法」等について協議し、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者の問題や、分からない事が生じると、支所が近隣にあるので、すぐに担当者で相談したり、情報交換をしたりサービスの質の向上に取り組んでいる。	徒歩数分の近隣に高崎市役所新町支所があり、何事についても足を運び、スプリンクラーの設置助成や転倒に伴う事故報告等を相談し、指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員のリーダーが、身体高速及び抑制などの研修などに参加し、職員会議などで常に話し合い他職員や新人職員が、正しく理解できるよう取り組んでいる。	身体拘束に関する研修会や講習会に参加し、研修内容は職員会議で報告して職員は共通認識を持っている。「忙しいからちょっと待って」等は言葉の抑制と認識し、不穏の人には食材の買い物に誘う等抑制や身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止セミナーなど、各職員に参加を即し、暴力や虐待は、人間としての尊厳を、著しく損なう行為であり、人権に対する権利侵害の最たるものであることを話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人は、弁護士、司法書士、社会福祉士であり、私たち職員は、個人的なことには関われないが、入居者の良き代弁者、家族には、この制度は活用できるよう、職員間で話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	なるべく時間をかけて一つ一つ丁寧に説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にアンケートを実施しているが、特に意見等が無く職員二名に対し、入居者三名を担当者とし、家族に担当職員の名を知らせ、より多くの意見、要望が聞けるよう勤めている。苦情相談窓口は、重要事項説明書に明記し、事務室前に提示し入居時に説明している。	職員2名でチームを組み入居者数名を担当し、家族の希望や苦情を聴取する体制を作っている。また、アンケート調査を行い、家族の意向や苦情を汲み取るよう努めている。運営推進会議における家族の意見を受け、家族が希望する場合は終末期の対応を行うこととしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヒアリング・ハットなどを生かし、職員会議等で職員の意見を聞いて、改善などを行い危険余地などに生かしている。その他 イベントなども担当者を決めて意見や提案なども聞いている。	管理者は、現場の意向を第一として事業所運営に努めている。月初めに開催する職員会議で話し合い、入浴方法の改善・ヒヤリング・ハットに基づく危険予知や予防等の意見を、事業所運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞きながら、なるべく働きやすい環境を作れるようにしている。また 全員でのスキルアップを目指して、講習や研修を受けたり、勉強会をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人一人の能力を把握し、各職員の能力に応じた講習や研修が出来るよう勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーは、新町ケアマネージャー研修会に参加し、情報交換をしている。ホームは、グループホーム協会に加入し、情報交換、意見交換などをし、他ホームとの交流訪問などを予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は、ご本人様を訪問して顔を覚えて頂き、入居後はそれとなく一人の時に、お話をさせて頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、なるべく時間をかけてお話を伺う、また、その後も、個別でお話を聞いたり、時には電話にてお話を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に多くの可能性を考えて、サービスの提供が出来るように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は洗濯物干し、掃除、食料、おやつなどを一緒に買い物に出掛け、手作りおやつ、食事作りなどを行っている。職員は、入居者の悩み相談に載って貰う等支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の訪問時、良くお話しし、意見や情報の交換に勤めている。また 運営推進会議では認知症などの勉強会を開きイベントに年二回日帰り温泉を行い、家族と入居者の交流にも力を入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が今を生きるを大切に考え、馴染みの人や、場所との関係が途切れないようスーパーに買い物に行ったり地元のボランティアとの交流に勤めている。	散歩や食材の買い物で会う馴染みの人たちと会話を楽しんだり、ドライブの際に実家に立ち寄り、美容院へ職員が送迎するなど、馴染みのある場所や人と継続した生活が出来るよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個別ケアを大切にしているが、入居者が孤立しないよう、風船バレー、カラオケ、カルタ遊び、手作りおやつなどを行い入居者同士が係わり合えるよう支援に努めている。また 月一回の外食を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	催事のお誘いや、手紙(葉書)をお出ししている。特に必要な時は、電話でのやりとりをさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者、一人一人の思いや希望を聞いて、ビールを飲みたい人には飲んでいただき、食べたいものなどは、一緒に買い物や外食などに取り入れている。また 家族に対しての以降や希望には、良き代弁者になっている。	入居者が「今を生きる」を大切に、本人が望む買い物や希望する外食、晩酌や美容院の利用等、一人ひとりの意向に沿った支援に取り組んでいる。意思表示の困難な人には、日々の係わりの中での言動や表情から思いを汲み取り、家族から希望を聞く等本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント、入居後は、家族に暮らし方などを聞いて、職員会議などで話し合い、馴染める生活環境を築けるよう勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が、一人一人自分のペースで、一日を過ごしていただけるように、常に職員間での話し合いを持っている。協力医が二週間に一度往診していただき連携をとっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング担当者を決めて、家族や関係者との話し合い、情報を得ている。また 連絡帳などを利用し職員間の情報の共有にも生かし、アイデアも出している。	担当チームを中心に3ヶ月毎にモニタリングを行ない、1年毎に定期見直しを行なっている。連絡帳に記載された家族の希望や身体状況の変化等職員の気づきを基に、毎月開催するケアカンファレンスで現状に即した見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、築きなど連絡帳に記入し、報告、連絡、相談を徹底して行い其のつど職員間で話し合いを持って、工夫、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	係り付け医の受診時、家族に代わって職員が受診に同行し、状態を家族に報告している。二ヵ月ごとに近隣の美容院の訪問があり希望する方がカットができる。時には、隣接する訪問介護の事業所に、お茶を飲みに出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの前に新町文化ホールや、新町図書館などがあり、新町ボランティア団体から、情報を得て利用している。また 新町支所も近くにあり、情報、相談なども行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人や家族の希望により、入居以前からの係り付け医になっている。また 協力医が月二回往診に見え、日々の健康相談をしている。近隣に、薬局がありFAXをし薬を届けて頂けるようにしている。また 近隣に歯医者もあり、必要なときには、往診もしてもらえるようにしてある。	かかりつけ医の受診や歯科医院の通院は、家族が対応している。眼科への通院は職員が対応し、受診結果を家族に報告している。協力医は月2回往診し、健康面のチェックを行なっている。緊急時は状況により家族の立合いを求め、職員が送迎している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が居ないので、月二回往診していたが協力医の往診や緊急時は電話等で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族対応の通院にも、出きるだけ職員が同行し、一日の生活や状況などお話し、病院のソーシャルワーカーのもの、相談、意見交換などを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望により、終末期のケアが可能な状態までホームで対応しており、入居時にホームで出来る最大のケアについて説明している。急返事は、家族や医師の連絡し、救急車で入院対応としている。重度化や終末期について、家族、係り付け医、ホームで話し合い、方針を共有している。	運営推進会議での意見交換をもとに、重度化した場合や終末期ケアは家族の希望により対応することとしている。なお、医療行為を伴う場合は、医師の指導のもとに入院することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、急変や事故発生時に備えている。また 職員、病院の連絡表を作成し、24時間対応していけるよう勤めている。職員会議でも常に話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急火災マニュアルを作成し、消防署との連携をとり、総合消化訓練を年二回実施している。また今年から夜間想定訓練も行った。	消火避難訓練を年2回行ない、うち1回は消防署の指導を受け夜間を想定している。近隣の人たちへの協力依頼を行っており、今後は訓練に地域の人たちの参加が頂けるよう働きかけることとしている。	近隣の人たちの協力体制(連絡網等)を整備し、近隣の人たちの参加について引き続き努力されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導の言葉掛けや対応に配慮し、職員同士で誇りやプライバシーを損ねる不適切な言葉掛けを注意あっている。個人の記録簿は、他の方の目に触れないよう事務所に保管し、職員は採用時に個人情報保護法の秘密保持の厳守を制約している。	食事中における排泄誘導の言葉かけや入室時のノック、命令口調での言葉かけの厳禁等、一人ひとりの人格を尊重した対応を行っている。また、失禁時の介助や入浴時の同性介助を希望する人への同性介助等、入居者の誇りを傷つけない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴前の着替えなど入居者に決めていただいたり、日常生活の決定にも入居者にして頂くよう職員間で徹底している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、本人の体調や気持ちを大切にしている。居室で過ごしたい入居者には、見守りや無理強いはずげにそっと声を掛けたりして、その方のペースで過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に入居者が整容して頂ける様誘導し、霧吹きなども自分で決められるよう声掛けをしている。また 化粧などのボランティアなどにも来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に、食べたいものなどを聞いて一緒に近くのスーパーなどで買い物をして台所で料理など手伝っていただいている。オシボリの用意、片付けもしていただいている。	入居者に何が食べたいかを聞き、食材の買い物で食べたいものを選んでもらっている。調理の下拵えや味見、食器並べや下膳など、入居者は出来ることを手伝い、職員は入居者とテーブルを囲み食事をしている。また、職員と共におやつケーキを作ったり、モーニングコーヒーを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝モーニングコーヒーやミルクティーなどを飲んでいただき 夜 寝る前はゆず茶などを飲んでいただいている。また お茶や、麦茶などは1日中飲めるようになっている。栄養管理、栄養バランスは常にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、入居者一人一人に、職員が口腔ケアの対応をしている。また 夕食後眠る前は入れ歯を預かり洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者がトイレにて排泄していただけるように、声掛け、誘導、見守りをしている。またトイレが利用できない入居者には、居室にてPトイレを利用していただきオムツの使用はなるべく減らすよう勤めている。	排泄誘導表に基づき、一人ひとりにあった声かけと誘導を行ない、トイレでの排泄にむけた支援を行っている。歩行困難な人の場合は、居室のポータブルトイレを使用する等排泄の自立を援助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排泄は、管理表を作成している。なるべく自然に排便をしていただけるよう寒天などを使用したり掛かりつけ医、協力医などと相談して処方される整腸剤などで、個々におおじた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望により火曜日を除き毎日入浴が出来、一人平均一人三日の入浴回数となっている。入居者には一人ずつゆっくりと入浴していただき、拒否する入居者には言葉掛けを工夫し、タイミングをずらして対応している。入浴しない入居者には、清拭をしている。また季節の菖蒲湯やゆず湯で楽しめるように支援している。	週3日を入浴の目安とし日曜日を入れる体制を取り、希望者は何時でも入浴することができ、飛び入りで入浴する人もいる。浴室は寒さや暑さを感じず気持ちよく入浴出来るよう冷暖房や換気設備が施されている。入浴を拒否する人がおり、一番湯に誘うなどその人の性格を把握した入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠る前に、体が温まる飲み物を飲んでいただいたり、足浴などを取り入れて、気持ちよく眠れる取り組みをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の掛かりつけ医、ホームの協力医に相談し、職員間にて良く話し合いを持ち対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、掃除、雑巾縫い、花の水遣り、テーブル拭き、お茶だし等をして頂いている。また テレビ観賞、カラオケ、風船バレーや塗り絵等職員と一緒に、月一回の夕食や季節の花見に出掛け気晴らしの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にホール周りの散歩、近所への散歩などドライブにて公園などにも出かけている。また 家族にも出かけるだけ入居者と一緒に出かけるよう勤めていただき支援している。	散歩や食材の買い物、図書館利用や文化ホールの観劇等日常的な外出支援に努めている。また、火曜日を夕食やドライブの日と設定し、花見や年2回の温泉旅行等計画的な外出を行なうと共に、家族と一緒に月1回は夕食や外出ができるよう家族に働きかけをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者本人が、お金を持ちたいと訴えがある場合、本人、家族、職員などでよく話し合い金額を決めている。また 外食上限を決めて家族よりお小遣いを貰いイオンなどで本人のほしい物を入居者がお金を払い買い物が出来る支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	葉書、切手などあらかじめ用意しており、手紙のやり取り、電話など出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には長いすが置かれ、腰をかけて履きもがはけるようになっている。要所要所に手すりがあり、ホールの床は木製で床暖房が完備されている。ホールには、テレビが置かれ、それを囲むようにソファが二つ並び入居者が会話を楽しめるように工夫されている。ホールに続く厨房からは、ご飯の炊ける匂いを感じられ、クリスマスツリーやクリスマスの音楽が流れて生活感や季節感を取り入れている。	ベランダに接続した車椅子利用の通路が建物を囲み整備され、入居者が何時でも自由に散歩が出来るよう工夫されている。また、食堂は床暖房が施され、季節の花が活けられ、食卓を2つに分けて気の合う人同士が同席するなど居心地良く過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席などは、自由に座れるようにしている。また 基本は個別ケアなので一人になりたいときは居室で過ごされているが食事のときは社会性の観点から食席で一緒に食事をするよう声掛けをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には箆笥、テレビ、椅子等が持ち込まれ、絵の好きな入居者は絵画を飾られたり、洋服やスカーフが居室の隅にかけられたりしている。生活スタイルに合わせての配慮をし本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	各居室には畳が一畳敷かれ、ベッドの位置は入居者や家族の意向を受け配置している。使い慣れた家具やテレビが持ち込まれ、プライバシーを大切にしながら居心地良く過ごせる居室作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員会議にて、出来ること、わかる事などを話し合い、日常生活に関わるお手伝いをして頂いている。また 入居者のペースにて誘導、声掛けの工夫やアイデアを出し合っている。		